

減災へ向けた地震防災マップ・パンフレットの解析と有効な減災マップの提案

The analysis of earthquake disaster prevention maps and pamphlets and the proposal of disaster reduction map

伊藤 有加 [1]; 増田 富士雄 [2]

Yuka Ito[1]; Fujio Masuda[2]

[1] 同大・工・数理環境科学; [2] 京大・理・地球惑星・地鉱

[1] Dept.Science of Environment and Mathematical Modeling,Grad,Engin,Doshisha Univ.; [2] Dept. Geol. and Mineral., Grad. Sci., Kyoto Univ.

全国の自治体で作られている市民向けの地震防災マップやパンフレットについて、より有効で利用価値の高い減災マップとして提案するため、12の自治体から集めた11種類の地震防災パンフレットと8種類の防災マップを対象に比較検討をした。解析では、項目や説明内容を要素抽出法を用いてグループ化して分類し、それらをもとに「防災マップ・パンフレット評価チェックリスト」を開発し、分かりやすさ、取り扱いやすさなどを評価、重要項目の抽出を行った。その結果、マップは「避難所」、「危険箇所」、「医療施設」、パンフレットは「家庭の防災対策」、「発生時の行動」など最低限の情報を記載すべきである。また、得られた防災マップとパンフレットに共通する問題点は、1) 使いにくいサイズ、2) 文字サイズと量が不適當、3) 不要な項目、4) 目的や対象者が不明瞭、5) 難しい言葉の利用、6) 表示の複雑さであることから今後作成するためには、利用用途や対象者を限定した上で、記載項目を選ぶ必要がある。